

資料 5. 文献検索の結果（概要）

本調査では、知的障害、発達障害、失語症、高次脳機能障害のある障害児者が医療機関を受診する際の課題等について、文献検索を行った。以下は調査結果の概要である。

1. 受診の課題

知的障害	発達障害
<ul style="list-style-type: none"> ○ 受診への不安や負担に加え、過去の医療機関受診における不快な体験や失敗によって、受診を控えることが生じている。医療機関については、障害特性や問題行動に対する不慣れや拒否的な雰囲気について課題として指摘がされていた。 ○ 受診時についての主な課題は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 受診前：受診に関する調整や受診に関する本人への説明や同意形成、受診可能な医療機関情報の入手、受診の必要性の判断等。 ➢ 受診時：待合等での待機時間、待合等での周囲への配慮、本人の受診拒否・抵抗等。特に、重度の知的障害や行動障害がある場合は、待機時の対応・配慮や本人の拒否・抵抗への課題意識が高い。 ➢ 受診後：継続的な受診、服薬の管理や定期的な服薬の実施、医師から求められたことに対する本人への対応等。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受診における発達障害児者・家族の困りごとは、待つことが苦手、初めての場所・人・ことが苦手で極端に怖がったり興奮したりする、始まりから終わりまでの手順がわからないと不安がある等であった。 ○ 発達障害の中でも自閉症を対象とした文献や調査報告書が多く、以下の課題が確認できた。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自閉症児の受診では、診察してもらえない、医療機関に入ることができない、特性に対する理解が得られない等の状況があった。 ➢ 特に、自閉症のある知的障害者は入院の可能性が低い。この背景には、症状の把握困難、医療行為や医療機関への適応困難、対応する家族やスタッフの確保、受け入れ医療機関の確保の難しさ等が要因と考えられている。 ➢ 本人については意思疎通が難しい、過敏である、じっとしていることができない、パニックを起こす等の特徴があり、環境や感覚・こだわりへの配慮、特性に合わせた説明やコミュニケーションの配慮が必要である。 ➢ これに対し、医療機関側は、情報知識の不足、診療態度、待ち時間等の環境の配慮、診察方法の工夫等に課題がある。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 知的障害・発達障害のある人向けのガイドブック・パンフレット等で記載のあった、受診時に課題となる特性は以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 感覚に過敏さがある 	

- つらさや苦痛を具体的に表現できない
- 説明の内容や専門用語等を理解できず、診察や検査の内容に不安を感じる／自分がすることがわからない
- 他のことが気になって説明を聞き漏らす
- 人が多い場所等で声を上げる、歩き回る等の行動をとる
- 医療機関内の移動について案内を受けても進路がわかりづらい / 等

失語症	
○	多くの失語症者はインフォームドコンセント時にコミュニケーション支援（描画、選択肢の提示、具体的な説明など）を受けていなかった。
➤	質問したくても表出できない。説明を受けても不安が必ずしも軽減されるわけではない。リハビリ開始時の説明が具体的ではない。
○	提言：コミュニケーション支援を積極的に活用、失語症者の理解力に応じた説明の工夫、家族や支援者の同席による支援の充実。

2. 医療機関において必要な支援・工夫

	知的障害	発達障害
総論	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受診しやすい環境や受診で嫌な思いをしないための環境整備が必要であり、医療機関にはそのための情報提供や支援が求められる。 ➤ 受診に向けた事前の情報提供 ➤ 事前の受診スキルのトレーニングに関する支援 ➤ 待合や診察に対する配慮・工夫 ➤ 受診環境の調整 ➤ 受診後のフォロー 等 ○ 合理的配慮の実施に向けては、障害児者・家族と医療機関の双方がお互いの状況を理解し行動することが重要である（医療機関は障害児者・家族の困りごとや必要とする配慮を理解する／障害児者・家族は医療機関が提供可能な配慮を理解する）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達障害のある人の受診のためには、医療従事者が障害特性の受け止めや支援する方法を具体的に理解する必要がある。 ○ 自閉症がある人の受診については、医療機関が本人・家族の受診の困難さや過去のネガティブな体験を理解し、特性に応じた個別支援を行うことが重要であり、理解に合わせた支援の構造化、感覚過敏への支援等が必要である。
具体的	<p>■ 待合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 他の患者と受診時間をずらす ○ いつまで待つか具体的に伝える（あと何 	<p>■ 待合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 待ち時間や順番を伝える ○ 別室や院外で待機ができる

<p>な 支 援</p>	<p>人・何分・針がどこを指すまで等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人が少なく、静かなところや気分転換できる場所に案内する <p>■ 診察・検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どの順に何をするのか全体の流れを伝える／診療の手順を図式化する ○ 診療の手順ごとに段階を踏んで経験させる ○ 他人が検査している場面を見せる ○ 気持ちの準備のために痛いことや我慢すべきことを具体的に伝える <p>■ 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 案内表示をわかりやすくする（ルートを色付け、矢印で案内） <p>■ コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ゆっくり、わかりやすく、丁寧に話す ○ はい・いいえで答えられる質問をする ○ 言葉でわかりにくければ実物を見せながら話す ○ 写真や絵を見せながら話をする（絵カード、タブレット、コミュニケーションボード等） ○ 文字に書きながら話をする ○ 文書は漢字を少なくしてルビを振る ○ 注意事項等はメモを記載してもらう ○ 医薬品の誤飲等を防止するための視覚化等を行う <p>■ 入院</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族等から事前に、日常生活で配慮すること、好きなこと、苦手なこと、生活パターン、必要な支援の内容等を聞き取る ○ 病棟での過ごし方やルール等をわかりやすく・繰り返し伝える ○ 1日のスケジュールを絵や文字で見えやすいところに貼る ○ 治療の日程などをカレンダーにして貼る ○ 病室がわかるように入口に目印をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機関に好きなものや落ち着くものを持ち込める ○ 気の散りにくい座席の位置の工夫、分かりやすいルールの提示【注意欠陥多動性障害】 <p>■ 診察・検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見通しを持てるように診察や処置の流れ等を事前説明する ○ 見通しがもてるような「スケジュール」「絵カード」「パンフレット」を使う ○ 手順や流れを絵図・文字・実物などでわかるようにしながら、ゆとりを持って進める <p>■ 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 刺激の少ない環境や穏やかな環境をつくる ○ 落ち着ける方法の事前確認や落ち着ける場所の確保 <p>■ コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 具体的にはっきりと言葉かけや説明をする ○ はい・いいえで答えられる質問をする／選択肢を提示する ○ 絵や文字などの視覚的な情報を使う ○ コミュニケーションの得意な部分を積極的に使う（ICTは文字を大きくして行間を空ける等）【学習障害】 ○ 短く、はっきりとした言い方で伝える【注意欠陥多動性障害】 ○ 肯定的、具体的、視覚的に伝える【自閉症】 ○ 傷ついた体験への寄り添いや適応行動を取れた際に評価する【注意欠陥多動性障害】 <p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感覚過敏については感覚面への配慮や過敏にならない工夫をする（イヤーマフの利用、大声で説明せず絵や文字で伝える、衝立などで区切る、クーラー等を利用等）
----------------------	---	--

		<p>【自閉症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本人の特性を理解する家族・支援者にサポートの方法を確認する
	<p>※知的障害・発達障害について一体的に整理した文献の内容</p> <p>■待合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者が少ない時間帯で予約を受ける ○ 駐車場（本人・家族の車）で待機してもらう ○ 待合室の刺激を減らす（掲示物やキッズスペースでの対応等） ○ 落ち着くためにイヤーマフ等を持参してもらう ○ パーティションで空間を区切る等をして、刺激が少ない環境をつくる <p>■診察・検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前にこれから行うことやその見通し等を絵や図を用いて説明する ○ 使用する医療器具等を事前に見せたり触ったりして体験させる ○ 付添い者や他者が手本を示して見せる ○ 診察の適した順序を相談する（本人が拒否しないことや選択できることから始める） ○ 理解したことを確認して、次の説明や行動を起こす ○ 診察や検査を行うことができれば評価する <p>■環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 刺激が少ない静かな場所を確保する（パーティションで区切る、空いたスペースを用意する等） ○ 気になる物が目に入らないようにする（医療機器を覆いで隠す等） ○ 床面に次にどこに行くか等の導線が書いてある <p>■コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 専門用語を使わず、簡潔にわかりやすく話す ○ 否定形ではなく肯定形で表現する ○ 写真・絵・実物など視覚的に伝えるなど得意なコミュニケーション方法を選択する ○ はい・いいえで答えられる質問をする、選択肢を示す <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事前に本人・家族が医療機関に相談できる体制がある ○ 事前にコミュニケーションの取り方や好きなこと・苦手なこと等を確認する 	